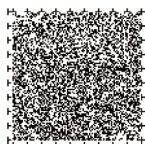


## 高木敏子について

高木さんの織物作品は、離れたところから、空間全体をながめたり、近くで織り目をじっくりみたり、いろいろな角度から鑑賞するのがオススメです！壁掛け作品は、よく見ると、織り目の細かさや糸の本数に違いがあり、立体作品は、糸の色が同じ色でも、淡かったり、濃い色目があったり、手作業ならではの表情の違いを見つけることができます。西陣織伝統の技を受け継ぎつつも、戦後、新しい表現にチャレンジした高木さん。糸や布など、繊維素材を使った、これらファイバー・アートの作品は、天井が高い MOT の展示室でも圧倒的な存在感を発しています。

音声コード  
Uni-Voice

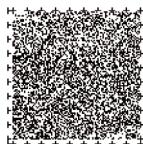


ガイドスタッフ M

## 河野通勢について

河野通勢は大正から昭和にかけて活躍した洋画家です。彼の育った家には元美術教師の父親が集めた西洋美術の画集や複製画がありました。河野は独学ながらそれらを模写したり、風景を写生することで、デッサンと描写を身につけました。親交のあった武者小路実篤の愛蔵品であったこの作品からは、洋の東西、時代を問わず、風俗を描き分けられる河野の自負が感じられます。女性たちの服装の装飾や春の花々が緻密に描かれていますのでご注目ください。

音声コード  
Uni-Voice



ガイドスタッフ Y



## 間所（芥川） 紗織 《女 XI》 1955

この女性を見て、どのように感じますか？何かを叫んでいるようにも、静かにこちらに語りかけているようにも、歌っているようにも見えるかもしれません。その表情や色使いには、どこか不思議な魅力があります。この絵は、作者自身の心の中にある感情を表現した「自画像」とも言われています。

さあ、もう一度、この絵をじっくり眺めてみましょう。この女性は、どんな感情なのでしょう？そしてこの絵を通して、作者の間所（芥川） 紗織さんがどんな人物に見えるのでしょうか？



ガイドスタッフ N

音声コード  
Uni-Voice

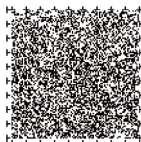
## 朝倉 摂 《1963》 1963 年

作品に描かれているのは炭鉱に建つ「豎坑櫓（たてこうやぐら）」です。背の高いやぐらに取り付けられた巨大な滑車でワイヤーを巻き、大きなカゴを動かして炭鉱夫を地下深くまで運ぶ、いわばエレベーターです。

石炭産業は戦後日本経済の急成長を支え、この作品《1963》が描かれた翌年の1964年には、ついに東京でオリンピックが開催されるまでになりました。しかしこの頃から、エネルギーの主役は石炭から石油へと急速に取って代わられます。命懸けで過酷な労働をしてきた人々はどうになってしまうのか。社会において困難な状況にある現場取材して制作した、朝倉摂の作品です。

音声コード

Uni-Voice



ガイドスタッフ K



## 前本彰子 《パンドラの箱の中で》 2002

この作品は、前本さんが育児に悪戦苦闘し、「自分はDNA 運搬の器か」と悩む中制作されました。制作中、まだ就学前のお子さんたちは、この作品の中を出たり入ったりして遊んでいたといいます。心身ともに休まる暇もない毎日は、あらゆる災いを封じ込めていた（そして最後に「希望」だけが残った）という、パンドラの箱の中のような感じだったのかもしれませんが。中央に座っている、お腹に大きな傷がある母親は、堂々として神様のようにも見えます。神にすぎりたいようにも、自分がこの神のようでありたいという願いのようにも思える作品です。

音声コード  
Uni-Voice



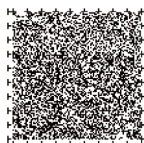
ガイドスタッフ K

オラファー・エリアソン

《人間を超えたレゾネーター》 2019年

初めてこの作品を見たとき、なんて美しい色だろう！  
と思いました。でも、よく見ると壁に絵の具が塗られて  
いるわけではない。え？どうなっているの？航海の  
安全を守る灯台で使われたリング状のレンズに光を  
当てて生み出された色です。太陽の光をプリズムに  
通すと虹色に分光されることを思い出して下さい。  
まるで科学の実験のようですが、光を消すと、この  
美しい同心円状の色は消えてしまうのです。  
「レゾネーター」とは共振器、共鳴器という意味ですが、  
光とレンズだけで人知を超えた美しい色が作り出さ  
れることに驚きを感じませんか。

音声コード  
Uni-Voice



ガイドスタッフT



## 山本 高之《Dark Energy: Tottori》 2013

誰もいない体育館で、ゴソゴソと動く段ボール箱。  
(※映像作品のため、タイミングによっては箱の中から、生徒が出てくる場面に遭遇した方もいる  
かもしれません！)鳥取の中学生 40 人がこの箱の中に入っているのですが、《Dark Energy: Tottori》というタイトルから、生徒達は、自由な身動きが出来ない状況下で、未だ謎が多い宇宙のエネルギーを感じているようにも見えます。一方で、箱に空いている小さな穴からは、生徒たちが大人たちや社会をすどい眼差しで見つめているのかもしれない。

音声コード  
Uni-Voice



ガイドスタッフ M



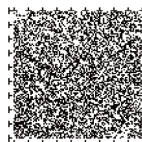
## イケムラ レイコ 《Memento Mori II》 2012

この陶の作品はプラチナの釉薬をまとい、外光に照らされ鈍く輝いています。作品タイトルの「Memento Mori」とは、ラテン語で「死を想え」という意味の言葉で、同タイトルで、複数点制作されています。横たわった空洞の胴体をご覧になって何を想像されますか。

少女をモデルにしたような人物はさびしげですが、おだやかな表情は死だけでなく生も同時にはらんでいるようで、安らぎを感じます。イケムラの考える「死を想う」とは、今生きていることの意味とは何かを、私たちに問いかけているのだと思います。



ガイドスタッフ S

音声コード  
Uni-Voice



アルナルド・ポモドーロ

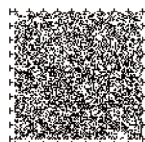
《太陽のジャイロスコープ》 1988



ガイドスタッフI

ジャイロスコープは船や飛行機の針路を定める時に使われる道具です。絶対の安定性と信頼性が求められます。作品を見てみましょう。とても力強く、合理性を感じます。でも気付きましたか。そこにある鋭い裂け目に。作者のポモドーロによれば、この裂け目は深層意識を表現しているのだそうです。合理性と深層意識が共存しています。この作品を見ると私は自分の人生を思います。岐路に立ち人生の針路を定める時には合理的な判断を心がけ、人生を送ってきたように思うのですが、そうでなかったこともあるなど。それは、それでよかったなど。

音声コード  
Uni-Voice

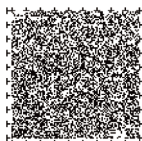


オノ・ヨーコ

《インストラクション・ペインティング》について

真っ白なカンヴァスに描かれたインストラクション（指示）。テキストのみのシンプルな作品ですが、目に入った瞬間、何かイメージが湧いてきませんか？具体的なモチーフがあるペインティング（絵画）とは違い、この作品が鑑賞者に与えるイメージは一人ひとり異なります。ある意味、この作品は私たちの頭の中で初めて完成するとも言えるのではないのでしょうか。普段見過ごしてしまいがちな日常のモノや光景も、この切り取られたテキストのように、ふと意識を向けてみることで、新しい見え方が生まれてくるかもしれません。

音声コード  
Uni-Voice



ガイドスタッフ F



鈴木昭男

《道草のすすめ - 「点音（おとだて）」 and "nozo mi"》

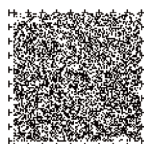
2018-19

《点音》は美術館内と敷地内に点在する12個の白くて丸いプレート。《nozo mi》は屋外展示場にある5つの階段状のもの。足とも耳とも見えるマークが目印。見つけたらたぶん乗ってみたいくなる、そんな作品です。美術館で作品に乗っていいの？ そう思われるかもしれません。が、子どもの頃、駐車場の車止めブロックのような地面から少し高いところについてみたいくなりませんでしたか？ そんな気持ちのまま、ぜひ《点音》に乗って、耳を澄ましてみてください。

12の《点音》の場所の地図もご用意しています。

手に入れて探検開始です！

音声コード  
Uni-Voice



ガイドスタッフ Y

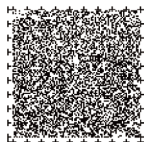


## 文谷有佳里 「ライブドローイングについて」

美術館のガラス面がここだけ華やか！ 2019年7月24日の公開制作で、仕上がって行く様子をお客様が直接見られるライブドローイング。一発勝負です！

黒くのびやかな線は作家の想いを乗せて高い所まで続きます。時には『そのペン書きやすいよね』などとお声もかかり、お客様との会話を楽しみながら和やかに。作品制作を通じて人とのつながりを大切にしています。私も挑戦したくなります。建築家が図面を描く様に、音楽家が作曲をする様に、描かれた作品からリズムカルなメロディーが聞こえて来るでしょう。コレクション展の入口にふさわしい作品です。

音声コード  
Uni-Voice



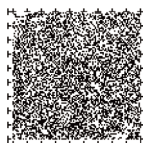
ガイドスタッフ O

宮島達男 《それは変化し続ける それはあらゆる  
ものとの関係をつなぐ それは永遠に続く》 1998

しばらく眺めてみましょう。1から9までの赤く  
点滅する数字が、それぞれ違う速度で繰り返し動いて  
います。0はありません。

ここから何をイメージしますか？ 生と死、人生、  
人間社会、あるいは宇宙でしょうか。LED デジタル  
カウンターを使ったシンプルな数字だからこそ、  
感じ方はさまざま。想像が広がるのかもしれませんが。  
この作品の長いタイトルは、作家が大切にしている考え方  
そのものです。「それ」とは何でしょう。あなたなら  
「それ」をどんな言葉に置き換えたいですか？ 広い  
この空間に包まれながら、時間を忘れて考えて  
みませんか。

音声コード  
Uni-Voice



ガイドスタッフ N

